

編集後記

筆者の勤務先がある埼玉県の川越市では、ようやく季節も春めいてきましたが、皆様の地方ではいかがでしょうか。

この間、秋葉原から池袋まで、山手線に乗っていた夕方でした。所用も終わりウトウトしかかっていた時でした。目の前のシルバーシートが空いたと思ったら、立っていた若い、巨大な黒人2人がどっかりと座りました。

これは注意した方が良いかなと思いましたが、どうやら話している言葉が良く分からない言葉なので、やめました。日本語で注意しても良かったかもしれないのですが、つまらぬ事を云って、怪我でもさせられたら困るので、やめました。なにしろ見るからに強そうな兄ちゃんでした。

こんな時には、皆さんはどうされますか？

国際化も良いけれど、外国人はもう少し日本の風習を勉強して欲しいと思いました。昔から郷に入ったら郷に従えという諺もあります。

さて、今月号は鹿児島大学の中條政敬教授をゲストエディターにお願いして、PETの特集を組んで頂きました。進歩著しい放射線医学の領域で、PETは最近とくに脚光を浴びつつある分野です。

癌診断、心臓病診断、脳神経病診断にその有用性が広く認識されはじめています。もれ聞くとところによれば、製薬メーカーでもF-18 FDGの保険診療を対象とした販売・供給を検討しているそうです。開始はたぶん平成17年との予想もあるようです。

このような時代の趨勢を考えると、PETに関して放射線科医あるいは、核医学医は十分な知識が要求されことになると思いますので、是非この特集を参考にして頂きたいです。

PET装置も250台の米国の設置台数と比較して見ると、我が国の台数は70台程度のもので、これから大いに発展する領域の一つのようです。

もう一つ大事なことがあります。本研究会雑誌も近々インターネットで検索可能になる予定です。これにより会員以外からも、有料ですが、容易に検索が可能になります。従って英語の抄録が大事になります。勿論すべて英語の論文も大歓迎です。

なお、次号(10月秋号)は大会抄録号(会長田中良明日大教授)になりますが、特集は東北大学の高橋昭喜教授がゲストエディターに決まっております。

来年春号(平成16年3月号)は熊本大学の山下康行教授がゲストエディターです、お楽しみに。

雲ながる 城址にしかと 露のとう (まちだ雪月花)

断層映像研究会雑誌

第30巻第1号 (断層撮影法研究会雑誌より通巻)

2003年5月1日 印刷

2003年5月31日 発行

発行人 田中良明

編集委員長 町田喜久雄

発行所 断層映像研究会

〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町30-1

日本大学医学部放射線医学教室内

断層映像研究会事務局

TEL. 03-3972-8111 (内線 2552/2553)

FAX. 03-3958-2454

定 価 2,000円